

## ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご利用ください。

栃木県土木部建築課

# 調査地案内図





栃木県立栃木農業高等学校新築敷地(才二期)地質柱状図(NO. 1)

調査地点 栃木県栃木市平井 919  
 調査年月日 昭和45年2月23日～2月23日

標高 T.B.M. - 0.107 m  
 孔内水位 G.L. - 2.65 m

標尺 m	標高 m	深度 m	層厚 m	柱状図	色調	地質名	観察	相対密度	相対稠度	標準貫入試験				採取方法	採取深度 m
										深度 m	N 値 / cm	10 cm 毎の打撃回数	N 値		
1					暗茶褐色	盛土 (ローム)	全体的にローム質土であり部分的に腐沼土を混えた盛土である		極軟	2 / 39	1 / 20	1 / 10			
2	-2.807	2.70	2.70		黄褐色	浮石 (腐沼土)	全般的に念水状の酸化物を混入する		中	6 / 30	1 / 2	2 / 3			
3	-3.757	3.65	0.95		橙黄色	凝灰質粘土	全体的に極少量の小角礫を混入した酸化物・腐植物も若干混る		極軟	1 / 50	1 / 30	1 / 30			
4					暗茶褐色	凝灰質粘土			極軟	1 / 30	1 / 35	1 / 35			
5					暗茶褐色	凝灰質粘土			極軟	1 / 35	1 / 35	1 / 35			
6	-6.407	6.30	2.65		暗茶褐色	凝灰質粘土			極軟	10 / 30	2 / 3	3 / 5			
7					黄灰色	細砂	全体的に火山灰質の細砂であり部分的に酸化物・腐植物も若干混入する		中	23 / 30	7 / 8	8 / 8			
8					黄灰色	細砂			中	30 / 30	7 / 10	10 / 13			
9	-9.407	9.30	3.00		暗褐灰色	砂質シルト	9.30~10.75m 附近シルト・細砂の互層状となし部分的に若干固結している		中	30 / 30	8 / 11	11 / 11			
10	-10.057	10.75	1.45		暗褐灰色	砂質シルト			中	17 / 30	5 / 5	5 / 7			
11					暗褐灰色	砂質シルト			中	50 / 20	25 / 25	25 / 25			
12	-12.507	12.40	1.65		黄褐色	シルト混り細砂	全般的に極めて密に固結している部分的に酸化がみられる		極密	50 / 25	21 / 20	9 / 5			
13									極密						

(註) 1. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- ◎-2 貫入試験機による試料
- 3 コア試料

2. 試料採取深度と回収比

3.20	3.20-3.70	は試料採取深度 (m)
45	45	は回収比 (50cm:貫入深さ, 45cm:試料長さ)
3.70	50	

3. 標準貫入試験の項で 10 cm 毎の打撃回数とは最初の 10 cm 貫入に要した打撃回数, 10cm~20cmの間で要した打撃回数, 20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれしめしたものである。

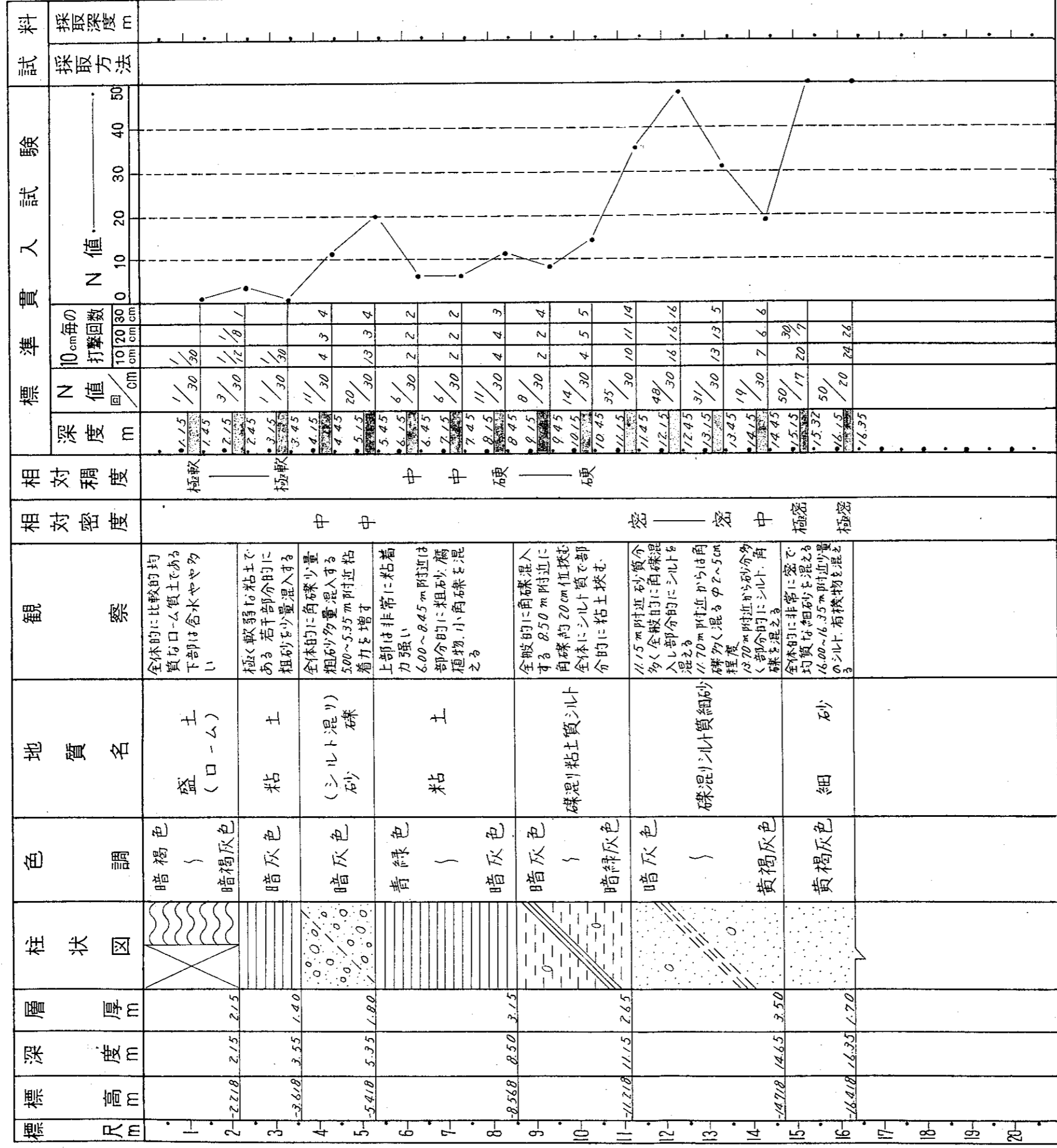
栃木県立栃木農業高等学校新築敷地(才二期)地質柱状図(NO. 2)

調査地点 栃木県栃木市平井919

標高 T.B.M. - 0.068m

調査年月日 昭和45年2月20日~2月22日

孔内水位 G.L. - 2.45m



(註) 1. 試験採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- ◎-2 貫入試験機による試料
- 3 コア試料

2. 試料採取深度と回収比

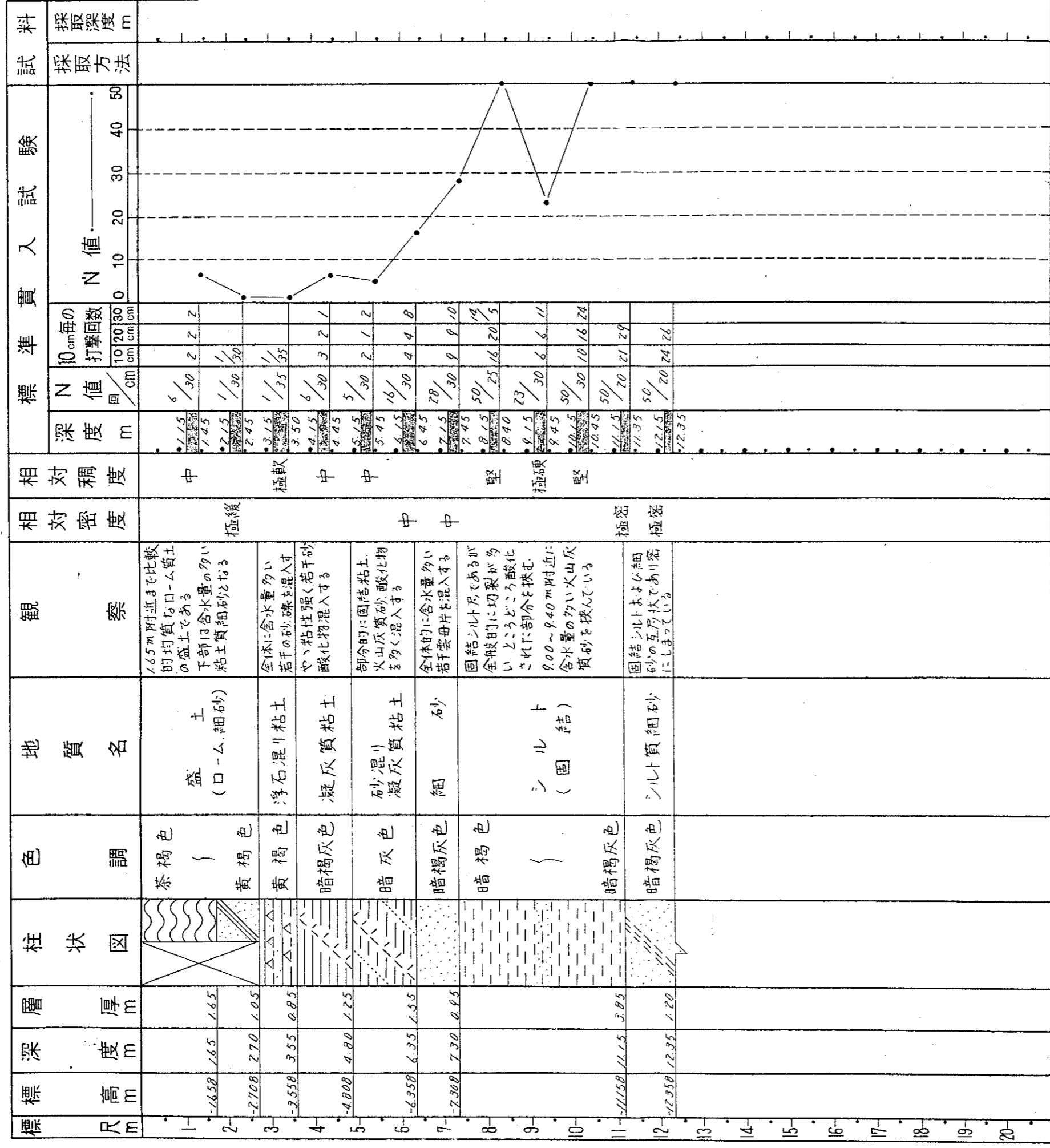
3.20	3.20-3.70	は試料採取深度 (m)
45	45	は回収比 (50cm:貫入深さ, 45cm:試料長さ)
50	50	
3.70	3.70	

3. 標準貫入試験の項で10cm毎の打撃回数とは最初の10cm貫入に要した打撃回数, 10cm~20cmの間で要した打撃回数, 20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれしたものである。

栃木県立栃木農業高等学校新築敷地(才二期)地質柱状図(NO. 3)

調査地点 栃木県栃木市平井 919  
 調査年月日 昭和45年2月24日～2月25日

標高 T.B.M. - 0.008m  
 孔内水位 G.L. - 1.70m



(註) 1. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- ◎-2 貫入試験機による試料
- 3 コア-試料

2. 試料採取深度と回収比

$\frac{3.20}{45} / \frac{50}{3.70}$   
 3.20-3.70 は試料採取深度 (m)  
 45/50 は回収比 (50cm:貫入深さ, 45cm:試料長さ)

3. 標準貫入試験の頂で 10 cm 毎の打撃回数とは最初の 10 cm 貫入に要した打撃回数, 10cm~20cmの間で要した打撃回数, 20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれしめしたものである。